

## 運営者インタビュー (2)

## 地域SNSの可能性と将来

インフォミーム株式会社 代表取締役社長 和崎 宏氏 (写真)  
聞き手: 三菱総合研究所 公共ソリューション本部 研究員 加藤 卓也

財団法人 地方自治情報センターの実証実験に参加した地域SNS以外にも、多くの地域SNSが各地で立ち上がっている。その一つである兵庫県の地域SNS「ひよこむ」を運営するインフォミーム株式会社 代表取締役社長の和崎 宏氏に、地域SNSの可能性と将来についてお話を伺った。

## ●連携機能で生まれる地域間交流

——「ひよこむ」や、「ひよこむ」と同じ地域SNSエンジンを利用する「さよっち」、「モリオネット」「まつえSNS」などでは、財団法人 地方自治情報センターの地域SNS間連携機能の仕様を用いて、連携機能を実装されました。和崎さんにとって、地域SNS間連携とは、どのようなものだったのでしょうか？

和崎 宏 (以下、和崎) 私達は、「ひよこむ」を始めた当初から、自分の興味があるさまざまな地域SNSにも参加して、その間で交流を深めるといった利用イメージは漠然と持っていました。今回、財団法人 地方自治情報センターから、地域SNS間連携の実証実験や仕様の公開が行われ、まさに私達が持っていたイメージを具体化するものだったので、積極的に取り入れさせてもらいました。

——利用者の方からの評判は、いかがでしょうか？

和崎 最初は、そもそも連携機能のニーズがどの程度あるのかなど不安材料もありましたが、実際に取り入れて使ってみると、皆さん便利だと評価してくれます。やはり、ログインの手間が減ったことと、新着情報をワンストップで確認できるようになったことが大きいようです。

今までは、メインで使っている地域SNS以外は、たまに覗いてみるという使われ方が多かったと思います。それが連携機能によって、メインの地域SNSを確認するだけで、他の地域SNSの新着情報も得られるようになり、複数の地域SNSへの参加を通してのつながりづくりがしやすくなったといえるでしょうね。

——連携機能によって、実際にどのような地域間交流が生まれましたか？

和崎 これまでは、「地域SNS間の交流」といえば、運営者レベルのものが中心でした。つまり、自治体やNPO同士で運営のノウハウやコツを共有するというものです。それが、連携機能によって、利用者レベルでも気軽に交流が行えるようになりました。

先日、姫路市で開催された「姫路菓子博」では、「ひよこむ」の参加者だけでなく、連携先の地域SNSからも多くの方に参加していただきました。また、自分の地域SNSがシステムメンテナンスなどで一時的に利用できなくなった時に、連携先の地域SNSを使って交流することもありました。

今後は、各地域のさまざまな特産品や文化のコラボレーションを通じて、新しいモノやサービスが生まれれば期待しています。地域間の交流で意外なもの結びついて、誰もが思いつかなかったような、あっと驚く名物が生まれるといいですね。

## ●ポイント機能が地域の「縁」を育てる

——財団法人 地方自治情報センターでは、今年度、地域SNSにポイント機能を実装する予定ですが、一足先にポイント機能を導入した「ひよこむ」では、これまでどのような成果が得られているのでしょうか？

和崎 ポイント機能開発のきっかけは、「持続可能な地域通貨」です。地域通貨については、これまで多くの自治体で取り組みが行われてきました。しかし、地域通貨が持続するためには、常に地域の人々の間で「縁」がつながり続ける必要があります。

地域SNSでは、人々のつながりが友人登録によって可視化され、さらに、日記やコミュニティでのコミュニケーションを通じてその関係性は持続し、更新されていきます。現在、ポイント機能は主に「昨日はありがとう、お礼に2ポイントあげる」といったように、コミュニケーションに付随して感謝の気持ちを示す、プレゼントのような道具として使われています。こうしたポイントの授受を通じて、地域の人々の関係性が価値化されるとともに、地域の人々の「縁」、言い換えれば信頼、規範、ネットワークといった「ソーシャル・キャピタル」を培うことができるのではないかと思います。

## ●「縁」と「円」をつなげるために

——では、ポイント機能によって培われた地域SNSのソーシャル・キャピタルを、リアル(実社会)の地域経済の活性化につなげるために、どのような取り組みが行われているのでしょうか？

和崎 今年4月に、連携機能やポイント機能を利用した、地域SNSプラットフォーム型地域電子モール「ひよこむモール」を立ち上げました。「ひよこむモール」では、従来の電子モールのように地域の物産をグローバルに「広く深く」伝えるのではなく、ローカルに「狭く深く」伝え



和崎氏

ることで、地域を元気にすることを目的としています。

信頼できる地域のお店や個人が、気軽に自分の自慢の商品を並べることが

できる。同じ地域の人々が地域SNS上で気軽にコミュニケーションを楽しみながら、商品を選ぶことができる。商品に加え、ちょっとしたサービスやおもてなしをポイントによって得ることができる。地域の物産を、地域SNS間連携を通じて他の地域の人々にもアピールすることができる。「ひよこむモール」では、単にモノを売って「円」を流通させる場としてだけでなく、モノにこころを一緒に乗せて、地域の交流を深める「縁」を紡ぐ場として使われることを期待しています。

また、こうしたやり取りを通じて、地域のソーシャル・キャピタルとしての「縁」と、地域経済としての「円」とが同時に回ることで、地域が活性化し、「情報の地産地消」によって地域がさらに元気になっていくのではないかと考えています。

「ひよこむ」トップページ  
(<http://hyocom.jp>)